トピックス 今年の話題

1 総合体育館　事業者が決定

新総合体育館の建設をめぐって審議が進められてきましたが、12月21日、事業者が決定し整備方針も明らかになりました。

今回の総合体育館の建設には、PFI方式という袋井市がこれまで取り組んできたことがない新しい方式を採用して進めてきました。この方法は、設計から建設、運営、維持管理まで一括して民間業者に委託するもので、民間の資金、ノウハウを最大限引き出して整備を進めようとするものです。

今回落札した業者は、大和リース㈱浜松(営)を代表企業とするグループ企業8社で、落札金額は56億9,156万7,075円（消費税除く）、事業期間は平成29年2月～平成47年3月31日までとなっています。

施設の概要は、建設面積5,231㎡、延床面積7,593㎡、鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、地上2階建て。

今後の建設スケジュールは、本年2月より設計・建設に着手、平成31年10月開業準備、平成32年4月1日供用開始となります。

▲総合体育館イメージ図　概要ですので実際と異なることがあります。

【主要施設】メインアリーナ／サブアリーナ／武道場兼多目的フロア／トレーニング室／多目的室／会議室／キッズルーム／ベビールーム／エントランスホール／その他、倉庫など

【主要屋外施設】こども広場／ウォーキングコース／駐車場・駐輪場

【自由提案施設】カフェ（スターバックスコーヒー）

2 袋井の史跡にみる井伊家とのつながり

今年のNHK大河ドラマは、「おんな城主　直虎」の放映が始りましたが、袋井市には井伊家と関係ある史跡があり、観光客の誘致も期待されています。

戦国時代、遠州一帯は、今川、武田、徳川が天下の覇権を掛けて争った地でありました。大河ドラマの主題となっている井伊家の歴史も、そのまま袋井の歴史遺産とも重ねて見ることができます。

まず可睡齋には、直虎が育てた井伊直政の長男·直勝と、その子·直好の墓があります。直勝は、井伊家の家督は継ぎませんでしたが、彦根城の築城を行い、最後は掛川城に移っています。子の直好は、掛川城の初代藩主になっています。可睡齋は徳川とゆかりのある寺であり、井伊と徳川の強い結び付を感じさせる父子の墓です。

重要文化財になっている油山寺の山門は、初代掛川藩主·井伊直好が建築した掛川城の城門です。明治5年、掛川城が廃城になった時、油山寺に移築されました。

▲井伊直勝の墓

▲井伊直好の墓

▲油山寺の山門は、井伊直好が建てた掛川城の城門を移築したもの。

▲井伊氏の分家・貫名氏ゆかりの妙日寺。

妙日寺は、日蓮の両親の廟所がある寺として知られています。両親はこの地を治めた貫名氏であり、井伊家の分れとなっています。日蓮の両親は、源平合戦で平氏に味方したことで安房に追われましたが、墓所を貫名に建てるよう遺言しました。

久野城の久野氏も井伊氏と縁があります。共に今川氏の輩下であった2代城主·久野元宗と井伊家城主·井伊直盛(直虎の親)は桶狭間の戦いで先陣を務めますが、織田信長の急襲を受け共に戦死しています。

袋井宿開設四〇〇年祭·時代絵巻パレードでは、袋井市出身のタンゴピアニスト·丸野綾子さんが直虎役を、可睡斎の和尚が南渓役を務めました。

《編集後記》政務調査費について

昨年も議員の政務調査費の不正使用が話題となりました。不明瞭で、説明の付かない支出は許されるものではありません。袋井市の場合、政務調査費の金額は1人あたり1ヶ月2万5,000円(年間30万円)が各会派に支給されています。政務調査費の使途は、「議会だより」や「市ホームページ」で明らかにしていますが、先進地視察や研修、広報費などとなっており、事務用品費などは半分が自己負担、残った場合は市に返還しています。常に襟を正していきます。

まもる通信 vol.19 2017年新春

ともに創ろう 明日の袋井 地域の未来

いいます 提案　やります 実行　みせます 実績

発行／袋井市議会議員　寺田　守
袋井市久能1810-11　TEL&FAX:0538(44)1351
mamorut@yr.tnc.ne.jp　http://www.mamoru-t.net

▲2年後となったラグビーワールドカップ会場　エコパスタジアム

地方創生に向かって前へ

第２次袋井市総合計画、２年目の年

昨年、市では袋井宿開設四○○年を記念する盛大なイベントがありました。中でも10月29日、30日の両日開催された時代絵巻パレードや市民総踊りには、5万5000人の市民が旧東海道袋井宿に集まり、大変に賑わいました。記念祭のテーマは、「時代を超え未来につなぐ」でしたが、まさに市民の底力を感じた行事でした。

しかし昨年は全国を見渡すと、熊本や鳥取での地震、また北海道·東北での台風豪雨、年末には糸魚川市の大火など、大変な災害に見舞われた年でもありました。また福島の原発被害など、いまだ先の見えない事故処理に追われている市町もあります。

世界では、イギリスのEU離脱に始まって、トランプ氏のアメリカ大統領選勝利という大方の予想をくつがえす出来事もありました。世界がますますグローバル化する中で、これまでの社会の仕組みが軋み、予断を許さない時代に入ってきたかのようです。

日本社会では、本格的な少子高齢化社会に向かっています。また、東京への一極集中や、地方の衰退が叫ばれています。当市は今のところ、県下で人口増加している上位3つの市町に入っており、高齢化率も県下35市町中、下から2番目の若いまちとなっています。しかし、この状態もそのままで続くわけではありません。

市では昨年、第2次袋井市総合計画をスタートさせました。総合計画では、まちの将来像を引き続き「日本一健康文化都市」とし、そのキーワードには「子育て」「定住」「市民力」を掲げました。“安心して子供を産み育てられるまち”、“若い世代が夢や希望を持って活躍できるまち”、また“市民が共に支え助け合って生きるまち”、この言葉からはそんな袋井市の姿が見えてきます。

これからラグビーワールドカップ2019、2020年東京オリンピックとスポーツの国家的祭典が待ち受けています。世界から多くの人がこのまちにも来ることでしょう。

今年が、地方創生に向けて本格的に前に向って進む年となるよう、皆様と共に頑張っていきたいと思います。

校舎の増築工事が始まる教育施設

●袋井北小学校

校舎の北側を延長し普通教室6教室を増築する

●周南中学校

校舎北側に普通教室4室、特別教室1室を増築する

新年度　新たな子育て施設がオープン

●めいわ月見保育園

上山梨で建設中、定員90人の認可保育所

●笠原こども園

笠原幼稚園と笠原保育所を統合、放課後児童クラブも併設

●放課後児童クラブ

袋井北小学校区内で開設される3か所目の施設